

令和7年度 学校関係者評価書

| 鈴鹿市立合川小学校          |                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価項目               | 本年度の活動(具体的な手立て)と指標                                                                                                                                                                                                      |
| 学力向上<br>ICT活用      | 1 授業改善<br>・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。<br>(児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」90%以上)<br>(保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」90%以上)<br>・全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。<br>(全国学力・学習状況調査結果、第1回みえスタディ・チェック結果 県平均以上) |
|                    | 2 ICTの活用<br>・日常的にＩＣＴ機器を活用した協働的な学びを行い、わかりやすい授業を実施する。<br>(児童アンケート クロムブックを使った学習はわかりやすいですか 90%以上)                                                                                                                           |
|                    | 3 英語教育の推進<br>・児童の学習意欲を高め、主体的で効果的なコミュニケーション活動を実施する。<br>(児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」90%以上)                                                                                                                                   |
|                    | 4 家庭学習の定着<br>・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。<br>(児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」90%以上)                                                                                                                                  |
| 長期欠<br>席対策         | 1 新たな不登校を生まない学校づくり<br>・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。<br>・教職員間で情報共有を図り、共通した対応を行う。<br>(児童アンケート「学校は楽しいですか」100%)                                                                                                            |
|                    | 2 保護者との連携<br>・日常的に保護者との関りを密にし、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。<br>(保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にした教育活動を行っていますか」95%)                                                                                                  |
| 非認知能<br>力育成        | 1 粘り強く取り組む態度の育成(やりぬく力)<br>・学習や学校生活における目標やめざすべき姿を明確にし、粘り強く物事に取り組ませる。<br>(児童アンケート「学習や生活で自分の決めた目標に向かってあきらめずに取り組みましたか」90%以上)                                                                                                |
|                    | 2 決められたことに対して計画的に取り組む姿勢(自制心)<br>・授業の課題や宿題に対して、計画的に学習を進めさせる。<br>(児童アンケート 学校での学習や宿題を計画的に取り組めましたか 90%以上)                                                                                                                   |
|                    | 3 学校行事や学年活動の充実(自己肯定感)<br>・学校行事や学年活動等で児童一人ひとりに目標を持たせ、結果の振り返りや教師の評価を通して、自分のよさを認識できる場を設ける。<br>(児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」90%以上)                                                                                           |
|                    | 4 仲間を大切にする活動の充実(社会性)<br>・学校行事や学習で、友だちと触れ合う機会を通して、仲間を思いやる気持ちや社会性を育む。<br>(児童アンケート 学習や行事、普段の生活で、友だちと仲良くすごしたり活動したりすることができましたか 90%以上)                                                                                        |
| 地域と<br>の連携         | 1 鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進<br>・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。<br>(保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努めていますか」90%以上)                                                                                             |
|                    | 2 情報発信の推進<br>・学校だより・学年通信・ホームページ・メール配信などを活用し、情報発信に努める。<br>(保護者アンケート「学校は、学校だより・ホームページ・メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」90%以上)                                                                                                     |
| 安全安<br>心な学<br>校づくり | 1 いじめのない学校づくり<br>・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。<br>・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。<br>(児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」100%)<br>(保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切にし、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」100%)  |
|                    | 2 登下校の安全確保<br>・ＰＴＡや安全ボランティア等と連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。<br>(児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」90%)                                                                                                                                  |
|                    | 3 防災教育・安全教育の推進<br>・防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知・予測や判断力を高め、自分の命は自分で守れる児童を育てる。<br>(防災訓練年3回、安全教室2回、不審者侵入防止訓練1回実施)<br>(保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」95%以上)                                                                |
| 教職員<br>の働き<br>方改革  | 1 教職員の総勤務時間の縮減<br>・一人当たりの月平均労働時間 30時間以下<br>・年360時間を超える時間外労働者数 0人<br>・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12人<br>・一人当たりの年間休暇取得日数 10日以上<br>・設定した日の定時に退校できた職員の割合 60%以上<br>・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 40%以上                                  |